

片山善博

前鳥取県知事

「よくがんばったね」

6人の子を育てて

逝った妻・弘子へ



夫人とは高校の同級生

「改革派、も妻にはかなわなかった

七月十七日、前鳥取県知事・片山善博氏の妻弘子さんが永眠した。享年五十七。片山氏は知事を二期務めたあと〇七年に引退したが、知事時代は改革派の先駆けとして、また、六人の子だくさんとして知られた。仕事と家庭の両面で支えた弘子さんの思い出を片山氏本人が振り返る。

「妻は十一年前から悪性リンパ腫を患っていました。この病気は血液のがんで治療はむずかしい病気です。でも、九年以上は健常者として

変わらない生活をしてい

ました。昨年くらいから体調

が思わしくなく、本当に生

活が困難になったのはこの

四力月くらい。さすがに最

後は自力で歩くことができ

なくなりました。そのとき

私と娘二人のほかに、男の

子四人もローテーションで

介護、介助してくれました。

これは妻にとってはいちばん

の喜びだったと思います。

入院中は二人でしみじみと『子供をたくさん育てた甲斐があったね』と語り合いました」

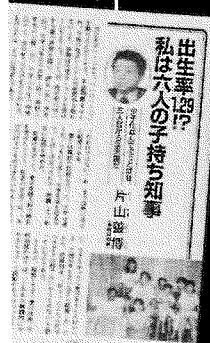
片山氏と弘子夫人は高校

時代の同級生。就職して一

年目に結婚を決めたとい

う。今年、結婚生活は三十三

年目を迎えていた。「(政界引退も)妻の病気が影響しなかったのかと言えば、それは嘘になります。



家庭でも仕事面でも、私に

とって妻の存在はとても大

きいものでした。パソコン

の調子が悪くなれば、妻に

整備してもらい、クルマで

の移動も、免許のない私は

妻に頼りきり。いちばん下

の子ももう大学生ですが

ら、亡くなる前の妻は子供

たちのことよりも、『あな

たが困るでしょ』としきり

に気に掛けてくれていまし

た。ずっと子育てを一緒にや

ってきましたから、体験と

記憶の共有者がいなくなっ

てしまったことが淋しいで

すね。『あれはいつだった

け?』とか『この写真は何

「文藝春秋」2004年8月号

夫人は産婦人科の医師から「不妊症の傾向がある」と診断されていたという。

「私たちは子供はできないものと覚悟して結婚をしま

した。それが、結婚してあ

つという間に妊娠してしま

つて。一回諦めたわけです

から、最初の子供が出来た

ときは『本当に大切に育て

よう』と心に誓いました。

そしたら次から次へ、四人

目、五人目と。六番目の子

供を産むときは、病院に歩

いて行くときに陣痛が起こ

つてしまい、もう五分遅か

つたら道端で産まれること

ろでした。

今では孫が四人います。

みなで集まると非常ににぎ

た。「彼女は最初から従順な妻ではありませんでした(笑)。イヤなものはいや。

自分のやりたいことは全部

やっていました。自然保護

活動や市民活動に取り組む

一方、国政選挙でも市議選

でも、自分で『これは!』

と思っただ人を応援する。私

は知事をやっていましたの

で、彼女を諫めると、『個

人の自由でしょ。(何かにつ

け)『自立』を言っている

あなたが、夫に従属しろと

いうのは論理が矛盾してい

るんじゃない?』と反論さ

れる。正論なので『そうだ

ね』と引き下がらざるを得

ませんでした。まさに公私両面におけるパートナーだった。

「亡くなる半日前、妻が大

学生のいちばん下の子と電

話で、『早く帰って来て』

と話したのが、最後の言葉

になりました。妻は本当に子育てを頑張りました。病気になるてからは闘病生活を頑張りました。いまは『本当によく頑張ったね』と、声をかけてあげたいと思っています」